

平成25年度第2回兵庫県スポーツ推進審議会 議事録（案）

- 1 期日・場所 平成26年3月17日（月） 13:30～15:00
兵庫県民会館 7階「鶴」
〒650-0011 神戸市中央区下山手通4丁目16-3
- 2 出席者
(委員9名) 平川委員 松本委員 和田委員 小山委員 平松委員
田名網委員 福井委員 東野委員 入江委員
- (欠席：山口委員 田中委員 寺見委員 増田委員
濱田委員 三木委員)
- (幹事10名) ●竹村幹事 ○清澤幹事 上田幹事 ○西口幹事
小南幹事 ●小畑幹事 ○横山幹事 中野幹事
○井崎幹事 廣瀬幹事 船田幹事 山内幹事
(●印は欠席、○印は代理出席)
- (教育委員会) 高井教育長
- (事務局) 升川副課長 山添副課長 山根係長 北中主任指導主事
- 3 開会あいさつ 高井教育長
- 4 委員・幹事紹介 司会者（山根係長）から紙面による委員及び幹事の紹介
- 5 署名委員の指名 署名委員は、平松会長の指名により、次のとおり決定された。
和田委員 小山委員

6 前回議事録の報告

平成25年度第1回スポーツ推進審議会における報告事項（平成25年度事業概要、「兵庫県スポーツ推進計画」の状況及び平成25年度の取組みについて）及び審議事項（兵庫県スポーツ推進計画の取組を進めるための方策について）について山添副課長が説明し、承認された。

7 報告事項

- (1) 第1回審議会後の対応について、山添副課長が報告した。
- (2) 今後予定されている主なスポーツイベントについて、山添副課長が報告した。
- (3) 平成26年度の事業概要について
 - ① 体育保健課に関する事業概要について、廣瀬体育保健課長が報告した。
 - ② スポーツ振興課に関する事業概要について、船田スポーツ振興課長が報告した。

③ 障害者支援課に関する事業概要について、上田障害者支援課長が報告した。

8 審議事項

(1) 平成25年度スポーツ振興団体に交付する補助金について、

山添副課長が説明し、案のとおり、関係団体に対して補助事業を実施することが承認された。

(2) 兵庫県スポーツ推進計画の取組を進めるための方策について

山添副課長より、スポーツ推進計画では、「地域スポーツとトップスポーツの連携・協働による好循環の創出」という、新しい概念を具現化していくために「官民学産」の連携・協働を推進することが明記されており、次年度の事業を展開する上で、いかにこの要素を取り入れていくかを検討していくことの必要性について説明があった。

さらに、「関西ワールドマスターズゲームズ 2021」をはじめ、本県で開催が決定している大会あるいは、今後、招致に取り組んでいく大会や関連イベントなどの場を活かした「スポーツ振興の一層の推進」についても、検討をすすめる必要があることの説明があった。これらの説明を踏まえ、各委員より連携・協働推進の課題やそれを克服するための、具体的な意見をいただいた。

(3) その他

意見なし

9 その他の事項

◇ 委員の主な意見及び事務局の説明

(1) 「報告事項(1) 第1回審議会後の対応について」

① 特になし

(2) 「報告事項(2) 今後予定されている主なスポーツイベントについて」

② 日本スポーツマスターズについては、これまで開催されてきた中でも異論があった。例えば、各競技団体が独自に運営を進めている部分があり、なかなか一つにまとまらなかった。また、参加人数については横ばいであるが、年々、下火になり盛り上がり欠けているように聞いている。従って、今年開催される埼玉県やその後の石川県、秋田県などの大会運営をじっくりと観察し、どのように対処していくかを考えていくことが必要である。これから2021年のワールドマスターズゲームズの開催に向けてどう盛り上げていくかなど、長期的視点にたった取り組みが必要である。

【事務局説明】

日本スポーツマスターズの参加者は、約7～8千人で横ばいに推移している。ご指摘のスポーツ機運の醸成を図るという部分については、十分に留意し、今後続いていく埼玉、石川、秋田の大会を観察していきたい。さらに日本スポーツマスターズを成功させる先には、関西ワールドマスターズゲームズ2021があることもしっかりと意識して、ワールドマスターズゲームズのPR、日本マスターズの成功に向けしっかりと取り組んでいきたい。

- ③ 開催競技や参加人数はその年によって違うのか。

【事務局説明】

基本的には都道府県毎に予選があったり、13 競技のうちボウリングや野球など 3 競技は近畿ブロックなどのブロック単位で予選があったりするので、毎年、各競技で一定の参加者を集めている。

- ④ 主催は国内の競技団体になっているのか。たとえば、メディカルの面でいえば、参加者の身体的な状況から、通常の選手以上にケアをしっかりとしないといけないと思うが、競技団体においてはメディカル委員会が無いところもある。県の競技団体がそのあたりの責任を持っているのか。

【事務局説明】

基本的に、日本体育協会、開催地都道府県及び開催地の県体育協会が主催、また開催地都道府県の実施競技団体が主管となり実施することになっており、こういったところが連携を取って展開することになっている。

- ⑤ 生涯スポーツ連合が実施する 11 月 23 日、神戸しあわせの村で実施する大会は、関西マスターズスポーツフェスティバルの中にカウントされているのか。昨年の大会では、体験コーナーが好評で参加者が多かった。すそ野を拡大するにはいい試みだと思ったが。

【事務局説明】

指摘のあった大会については、冠をつけて実施する方向で検討をすすめている。競技種目によっては、競技内容だけでなく、ワールドマスターズ自体が十分に認知が図れていないとか、参加者が確保しきれない競技もあるので、体験的なものも含めて実施しようと考えている。

- ⑥ 関西ワールドマスターズゲームズ、日本スポーツマスターズ、関西マスターズスポーツフェスティバルのそれぞれの位置づけはどうなっているのか。3 つとも繋がっているのか、あるいは個別の大会なのか。また、だいたい同じような競技種目があると考えていいのか。

【事務局説明】

関西ワールドマスターズゲームズについては、16 のコア競技と 13 ないし 14 のオプション競技ということで、開催国が独自に決めるということになっている。

関西マスターズスポーツフェスティバルについては、できるだけすそ野を広げることと、関西ワールドマスターズゲームズの認知がまだまだ不十分ということもあるので、生涯スポーツのすそ野拡大とあわせて関西ワールドマスターズゲームズの認知を広げていくということを目的としている。日本スポーツマスターズについては、どちらかというとエリートマスターズ大会であり、こういった大会を誘致する

ことで、マスターズスポーツ全体を盛り上げるという意味と、これについても、関西ワールドマスターズゲームズへの一つの起爆剤にしたいというところで、開催を検討している。また、ワールドマスターズゲームズについては、30歳以上であれば、登録なしで誰でも参加出来るという大会で、日本マスターズは出場制限があるので大会の参加形態については、全く別という考え方になっている。

(3) 「報告事項(3) 平成26年度の事業概要について」

- ⑦ 3月のはじめに日体協のスポーツドクターの全国大会があった。その席で兵庫県の「いきいき運動部活動支援事業」の話があがっていた。全国的にも注目されているので、兵庫県としては、もっと大きく取り上げてほしいと思う。また、こういった事業と食育をかねて実施すると効率的であると考えている。
- ⑧ トップアスリートの育成という観点から、中学・高等学校での現場ではいろいろと施策が講じられているが、トップアスリート育成には幼少期からの取り組みが重要になってくるといつも思っている。世界のメダリストの多くも、幼少期から様々な競技に親しんでいる様子を見聞したりすると一層強く感じる。以上のことから、ジュニア選手の発掘や育成といった施策はどのようなようになっているのか。

【事務局説明】

従来より、「はばたけ兵庫推進プラン」の強化策において、県体育協会加盟団体が、小・中学生に対してスポーツ体験教室等を実施し、これらの取り組みを通じて、いろんな競技の基本的な部分を学ぶ機会を設けている。また、生涯スポーツの観点では、子どもがスポーツをはじめのきっかけは、親子で運動する機会に多いということから、以前に作成した親子で運動をするプログラムをスポーツクラブ21でも活用し、子どもが運動をはじめのきっかけづくりに取り組んでいただきたいと思います。これらのように、小中の時代から生涯スポーツ・競技スポーツの両方の観点から取り組んでいる。

- ⑨ 学校からのドクターの派遣要請について、学校のニーズに応えられるようなドクターの登録のバンクがあるのか、また、あった場合には細かく各学校へ案内できているのか。同様に指導者バンクについてはどうか。

【事務局説明】

指導者バンクについては、県体育協会の中にある広域スポーツセンターにすでに存在しており、登録者一覧等をHPで公開するなどして情報提供をしている。

学校単位の部活動については、外部指導者は長年の経験の持ち主で、高レベルの技術指導力を有している。指導者の派遣状態については、県の方でも把握をしているので、指導者に関する問い合わせについては対応できると考えている。ただ、ドクター派遣ということになると、学校現場では、学校医に相談することが多く、スポーツ関係の細かいアドバイスを受けるといふようなところについては、委員の言われるような状況については、なかなかできていない状況だと思うので今後、検討

をすすめたい。

- ⑩ ドクターの立場からいうと、各学校から「この医師に来て欲しい」と指名があっても、他の医師の営業妨害になるのでなかなかできない。従ってむしろ、多くの競技団体はメディカル委員会を持っているので、競技団体から派遣について調整をしてもらうのが良いと思う。

現在、本県には医師会でスポーツに関する研修を受けた医師が約 500 名いる。この中には、日体協のスポーツドクターの資格取得者 108 名や整形外科医約 300 名も含まれており、重複分を差し引いて、約 500 名くらいのスポーツドクターがいると推測される。ところが、現場で実際に動いているのは 100 名以下である。このことから、スポーツドクターを直接探すということより、日常的に身近にいる医師と関係を持つことで、ニーズにあった医師を紹介してもらえするという方法もよいと思う。以前から、ドクターのネットワークをつくりたかったが、やはり営業妨害や公的なところからドクターの紹介はできないなどの指摘があり、なかなか進展していない状況がある。

(4) 「審議事項(1) 平成 26 年度スポーツ振興団体に交付する補助金について」

- ⑪ 特になし（全員「異議なし」により承認）

(5) 「審議事項(2) 兵庫県スポーツ推進計画の取組を進めるための方策について」

- ⑫ 重点目標 1 の「スポーツする子どもの増加」について、平成 25 年度の小中高生のスポーツ実施状況の速報値を見ると決して良くない。特に、中高生の女子の実施状況が極めて悪い。この状況のままであると数値目標を達成することが難しいと考えている。スポーツ推進の子どもから大人までのメインテーマは、「スポーツを実施する人の増加」が一番だと思っている。新規事業も含めて提案した内容を十分に評価した上で取り組み、成果が上がっていくようにもって行かなければならない。例えば、子どもの体力向上方策でいうと 2009 年には DVD を作成しているが、現時点においては、効果的な状況が見られないということは、やり方は提案しているものの、現場では十分に活かされていないという考え方もできるので、毎年、このあたりことについて、意識をもって取り組んでいかなければいけない。

- ⑬ スポーツをする子どもの増加と体力の向上の項目について、ジュニアスポーツが活発化して、バレーやサッカーや野球などの多くの子どもたちが参加している反面全くスポーツに参加していない子どもたちもたくさんいると思う。そういった子どもに対し、小さい頃からスポーツをすることの喜びや楽しみを体験させてやる機会が地域の中で必要であると思う。スポーツクラブにおいても、ジュニアスポーツに積極的に参加する子どももいれば、そうでない子どももいる。こういった現状が、先ほど他の委員から指摘のあった中学生女子のスポーツ実施率が低くなっているということにつながっていると思う。今、小学校単位で地域自治協議会という組織が県下各市町で広がってきている。そういった組織のスポーツ部会で、様々なスポーツに親しむ機会を増加させる取組が増えてきている。そういった取組を参考に県下

でも広がってくればと考えている。私の地区では平成 26 年度のスポーツ遊びとして「親子でスポーツ遊び競技」を年間 20 回ほど実施するように計画している。このような取組で、ジュニアスポーツに参加できない子どもでも、親子で参加しボール遊びなどを通して楽しさを体験させる機会をつくり出そうとしている。このような活動を広げていけば、もっとすそ野が広がっていくのではないか。

もうひとつは、こういった実践を年度末にきちっとした評価と総括を出してはどうか。現状の報告だけでなくどのように取り組んできたのか、数値的なものが出てくれば新たに見えることもある。

- ⑭ スポーツをする子どもの増加については、子どもの運動部加入率は確かに低い。これは地域差も関係すると思うが、体育の授業以外のスポーツ環境や指導者の養成が根本的な問題になっているのではないか。そのためにも、学校以外のスポーツができる環境の広報が思う。学校と学校以外が共存し互いに補い合いながら、子どもには選択肢を増やしていく。こういった環境整備により、本当はスポーツをしたいのにやる場所や機会がないという状態を解消する必要があると思う。もう一点は、外部指導者派遣については、学校現場では指導者の確保が大きな課題となっている中、指導者養成事業は大変ありがたいことだが、逆に指導者の人数が増えてきているので、やはり研修会をしっかりとして資質の向上に努めて欲しい。
- ⑮ 神戸市の取組については、小学校区に 1 クラブを設置し約 4 万人の会員がいる。神戸市の場合小学校に部活動が無いので、そこにかわるものとして教員の組織で、神戸市のスポーツ協会というのがあり、その中でドッジボールや水泳大会等を実施するといった取り組みをしている。また、神戸市内の小学校の中のスポーツ少年団があつまって、野球や柔道、水泳などの大会を実施している。先ほども他の委員から指摘があったとおり、中高になると運動しない女子が増えているというのは神戸市も同じである。また、文化部の含めて入部率は全体で 9 割を越えているが、運動部の女子の割合も徐々に下がっており大きな課題と捉えている。さらに、神戸市にも外部指導者の制度があり、昨年は 200 人を越えていたが、今年は 180 人を少し越えた程度となっている。指導員については、文化部も含めて技術的な指導を中心に実施いただいている。謝金は、2 時間で 2,010 円と少額で協力してもらっている。その他、大規模スポーツイベントとして全日本女子のサッカー大会を実施することとしている。
- ⑯ 競技力の向上について、スポーツ指導者の海外派遣や未来のスーパーアスリート支援事業等、新規の事業が実施されるということで、メディアも注目するであろうし、大変興味深く思っている。その上で、海外派遣事業で指導者が海外へ行き、戻ってきた際、他の指導者へ研修内容を報告できるような機会をつくってもらいたい。おそらく 10 競技団体が一週間も一度に派遣できるものではないので、先に行った者が各競技団体に対して報告会を実施し、指導方法について情報提供をいただきたい。また、未来のスーパーアスリート支援事業については、競技団体からの具体的な取組の提案を支援していくということだが、これについても、それぞれ効果のあった

ものを各競技団体が共有できる報告会の実施や広報などにも取り組んで欲しい。いずれにしても、個々の報告というよりも、「チーム兵庫」という視点で、全般で効果を共有することが大切だと考える。

- ⑰ 各新規の事業については、大変興味をもっているが、例えば指導者の海外派遣についても、ある競技で「中央競技団体」と「兵庫県下の加盟団体」がどう連携をとって派遣者を選ぶのかという課題もあると思う。このあたりが競技団体の中で統一されないと、その効果も減少するのではないか。この点に留意し、今後、各競技団体から提案のあったものをよく検討いただき、より効果的な事業となるように取り組んでいってほしい。

10 閉会あいさつ 船田スポーツ振興課長

11 閉 会

署名委員

氏名 _____ 印 氏名 _____ 印